

第20回 移動容器規格委員会 議事録

I. 日 時：平成29年8月3日 14:00～15:40

II. 場 所：高圧ガス保安協会 第5会議室

III. 出席者（敬称略・順不同）

委員長：小川

副委員長：吉川

委員：大谷、石崎、瀧澤、大橋、石田、久保田、田中、阿部、難波江、宮崎

K H K：別府、加藤、種物谷、篠原、成宮

IV. 議 題：

(1) 前回議事録(案)の確認・承認

(2) 技術基準整備3ヶ年計画（平成29～31年度）(案) について

(3) 空気呼吸器用継目なし容器再検査基準 KHKS0151 及びアルミニウム合金製一般継目なし容器再検査基準 KHKS0152 の改正（軽微な変更）について（報告）

(4) 容器プロトタイプ試験基準 KHKS0123（2012）の定期見直しについて

(5) 液化炭酸ガス容器用安全弁に関する基準KHKS0127（2007）の定期見直しについて

(6) 溶接容器溶接補修基準 KHKS0180（2008）の定期見直しについて

(7) その他

V. 配付資料

資料20-1 移動容器規格委員会委員名簿

資料20-2 第19回移動容器規格委員会議事録（案）

資料20-3 技術基準整備3ヶ年計画（平成29～31年度）(案)

資料20-4-1 空気呼吸器用継目なし容器再検査基準 KHKS0151（2012）の改正（軽微な変更）について（報告）

資料20-4-2 アルミニウム合金製一般継目なし容器再検査基準 KHKS0152（2012）の改正（軽微な変更）について（報告）

資料20-5-1 容器プロトタイプ試験基準 KHKS0123（2012）の定期見直しについて

資料20-5-2 容器プロトタイプ試験基準 KHKS0123 改正案(新旧対照表)

資料20-5-3 容器プロトタイプ試験基準 KHKS0123 引用規格比較表

資料20-6 液化炭酸ガス容器用安全弁に関する基準 KHKS0127（2007）の定期見直しについて

資料20-7-1 溶接容器溶接補修基準 KHKS0180（2008）の定期見直しについて

資料20-7-2 溶接容器溶接補修基準 KHKS0180 改正案(新旧対照表)

資料20-7-3 溶接容器溶接補修基準 KHKS0180 引用規格比較表

参考資料1 容器プロトタイプ試験基準 KHKS0123（2012）

参考資料2 液化炭酸ガス容器用安全弁に関する基準 KHKS0127（2007）

参考資料3 溶接容器溶接補修基準 KHKS0180（2008）

VI. 議事概要

1. 事務局挨拶等

開会挨拶の後、事務局より委員会の成立（委員12名の出席により定足数8名以上を満足）及び欠席委員（北野委員、農頭委員）の報告があった。また、資料20-1に基づき新任委員（田中委員）の紹介があった。

2. 前回議事録（案）の確認・承認

資料20-2に基づき「第19回移動容器規格委員会議事録（案）」の採決が実施された。出席委員の過半数（7名）以上の賛成（満場一致）により可決された。

3. 技術基準整備3ヶ年計画（平成29～31年度）（案）について

事務局より、資料20-3に基づき、平成29年度から31年度における移動容器規格委員会の技術基準整備計画について説明があり、技術基準整備3ヶ年計画（平成29～31年度）（案）について採決を実施したところ、出席委員の過半数（7名）以上の賛成（満場一致）により可決された。

4. 空気呼吸器用継目なし容器再検査基準 KHKS0151 及びアルミニウム合金製一般継目なし容器再検査基準 KHKS0152 の改正（軽微な変更）について（報告）

事務局より、資料20-4-1及び資料20-4-2に基づき、昨年度実施した空気呼吸器用継目なし容器再検査基準 KHKS0151 及びアルミニウム合金製一般継目なし容器再検査基準 KHKS0152 の改正（軽微な変更）について報告があった。

5. 容器プロトタイプ試験基準 KHKS0123（2012）の定期見直しについて

(1) 事務局より、資料20-5-1、資料20-5-2及び資料20-5-3に基づき、容器プロトタイプ試験基準 KHKS0123（2012）の定期見直しについて説明があった。主な質疑等は次のとおり。

①継目なし容器の破裂試験における合格基準4.8.3について、破裂圧力の計算式が示されており、容器の材料に応じた係数Cが乗数として規定されているが、Cが規定されている根拠はなにか。

→参考としているISO基準（ISO9809-1～3）を調査したが、Cの根拠は不明であった。

→材料の降伏比によって定められた数値ではないかと推測する。

→事務局で調査し、後日回答する。

②溶接容器の圧力サイクル試験の合格基準5.10.3について、継目なし容器の圧力サイクル試験の合格基準4.9.3と記述が異なるが理由はなにか。

→継目なし容器についてはISO9809-1～3の合格基準の記述「without developing a leak」を参考に「漏れがなく、かつ、～変形がないこと。」と、溶接容器についてはISO4706の合格基準の記述「without failure」を参考に「変形がないこと。」とそれぞれ規定している。

→「failure」は破損であり、変形とは異なる。

→容器の材料によっては、変形が生じないまま漏れることもある。

→「failure」は、容器に変形がなく漏れが生じることも含まれると考えられる。

→参考としているISO基準に整合させるため、溶接容器の圧力サイクル試験の合格基準を「容器に漏れがなく、かつ、変形がないこと。」と修正する。

(2) 事務局の定期見直し案は「軽微な変更に伴う改正（書面投票及びパブコメ等是不

要)」であるが、溶接容器の圧力サイクル試験における合格基準の変更は技術的内容の変更に該当するため、書面投票及びパブリックコメントを実施することとして採決を実施することとなった。

- (3) (2)を踏まえ、容器プロトタイプ試験基準 KHKS0123 (2012) の改正に係る書面投票の実施、書面投票実施期間(15日間)及びパブリックコメント実施期間(1ヶ月)について付帯条件を付して採決を実施したところ、出席委員の過半数(7名)以上の賛成(満場一致)により可決された。

付帯条件:書面投票等の結果、修正が必要となった場合は審議を行い再度書面投票(15日間)を実施する。委員会を開催するかの判断は委員長に一任する。

6. 液化炭酸ガス容器用安全弁に関する基準KHKS0127 (2007)の定期見直しについて
事務局より、資料20-6に基づき、液化炭酸ガス容器用安全弁に関する基準KHKS0127 (2007)の定期見直しについて、事務局案として「確認」としたい旨の説明があり、今回の見直しを「確認」として終了することについて採決を実施したところ、出席委員の過半数(7名)以上の賛成(満場一致)により可決された。

7. 溶接容器溶接補修基準 KHKS0180 (2008)の定期見直しについて

- (1) 事務局より、資料20-7-1、資料20-7-2及び資料20-7-3に基づき、溶接容器溶接補修基準 KHKS0180 (2008)の定期見直しについて説明があった。主な質疑等は次のとおり。

①7 溶接補修の方法(8)について、資料20-7-2の改正案に加え「記号が」を「記号が、」に修正する旨、事務局から説明があった。

②引用規格JISZ3211について、被覆剤の種類記号18の溶接棒はJISZ3212の低水素系の溶接棒に該当するものもあるようだが使用できるか。

→被覆剤の種類記号18は鉄粉低水素系に該当するため使用できない。

- (2) 質疑応答後、軽微な変更に伴う改正を行うことについて採決を実施したところ、出席委員の過半数(7名)以上の賛成(満場一致)により可決された。

8. その他

- (1) 次回の委員会開催については、別途日程調整を行う。

- (2) 移動容器規格委員会委員の任期が8月31日で満了となるため、8月中に委員委嘱の手続きを行う。

以上